

[報告] 第 29 回歴史地震研究会参加記

筑波大学 生命環境系* 千葉 崇

Participation Report in 29st General Meeting

Takashi CHIBA

Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba

1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8577 Japan

§ 1. はじめに

日中の最高気温が 30 度を超える残暑の中, 2012 年 9 月 14 ~ 16 日にかけて, 第 29 回歴史地震研究会が神奈川県横浜市開港記念会館(口頭発表・シンポジウム会場)と横浜都市発展記念館(ポスター発表会場)において開催された。今回, 著者は初めての参加ながら都合により 9 月 14 日のみの参加となったが, 当日は会員, 一般, メディアを含め, 立ち見の方が見受けられるほどの参加者数があった。これは 2011 年 3 月 11 日に起こった東北地方太平洋沖地震から 1 年半が経過してその知見が多く得られてきたこと, 近年警戒されている首都直下地震や東海-東南海地震に対する関心の高まりが背景の一つとしてあるように思われ, 歴史地震研究への興味・関心がより高まっていることが窺われた。

§ 2. 歴史地震研究会 9 月 14 日

9 月 14 日は「津波堆積物」, 「ポスター発表」, 「関東の地震」がセッションとして設定されていた。

まず, 津波堆積物セッションは, 津波の痕跡として地層に残された堆積物を地質学的に読み解くことから, 古津波イベントを認定する研究の発表を聞くことができた。このセッションでは, 津波堆積物もしくは津波イベントそのものの認定や, 津波イベントの年代決定が難しい印象を受け, 津波堆積物研究は今後さらに発展していくべき分野であると, 改めて考えさせられた。

昼休みを挟み会場を移して行われたポスター発表では, 幅広い分野の歴史地震研究について, 歓談を交えながら活発に議論が行われた。

午後から行われた関東の地震セッションでは, 地球物理学的手法による地震の解析や津波の解析, 古文書や石碑などの歴史記録, 大正関東地震による犠牲者の遺体処理の過程といった, 関東地震に関する様々な発表を聞くことができた。中でも「関東大震災における犠牲者のゆくえ」という発表は特に印象に残るものだった。地震の発生から遺体が回収され, 処

理されるまでの過程が, 当時の生々しい写真とともに紹介された。災害や防災について考察された研究が多い中, 災害対応の観点には鮮烈な印象を持った。

防災及び, 災害対応への意識を高める一つの手段として, 災害の実態について当時の記録を詳細に振り返ることが挙げられる。地震の科学的な側面だけでなく, 社会が経験した出来事としての具体的な実態を, 風化させず後世に伝えていくことが重要であると, 改めて考えさせられた。



口頭発表会場



活発な議論が行われたポスター会場

* 〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
電子メール: chibat@geol.tsukuba.ac.jp

§3. 地形・地質学の立場からの感想

地形・地質学では、古地震イベントの年代決定の際、歴史記録から明らかにされている地震との対応関係を求めることが多い。その一方で、照合する地震記録が、史料からどういう過程を得て解釈され認定されてきたのかという部分には焦点が当てられないことが多い。今回歴史地震研究会に参加して、歴史記録の発掘から解釈までの過程を垣間見ることができ、大変興味深く発表を聞くことができた。

さらに発表を聞くことを通して、歴史地震研究には理学的な手法を用いたものから文学的な手法を用いたものまで大変様々な研究があり、一度聞くだけでは解釈が難しいと感じるものもある一方で、研究の過程や扱う対象については類似点も多くあると感じた。例えば、地質記録、歴史記録はどちらも何かしら不完全な部分が含まれている点である。地形や地層には必ずしも起こった出来事の全てが保存されているわけではなく、人が残した記録にしても、出来事全てが網羅されているわけではない。さらに古い記録ほど情報の風化が著しい点も共通している。そうした不完全な部分や断片を、歴史学であれば、別な史料を探して補い、地質学であれば別な試料や指標で補い、一つ一つの記録を地道に分析して積み重ね、ある道筋を

たてて解釈していくことで古地震像に迫るという意味では、地質学も歴史学も近いことを行っていると感じられた。またその地道な作業無くして、精度の高い成果を得ることができないことも同様であると思われた。

過去に起こった地震及び災害を理解し、今後の防災に活かすためには、測地記録、地質記録、歴史記録など、異なる分野の情報を互いに持ち寄り議論することが重要であるが、実際に議論する機会はそう多くないと思われる。その点について、多様な分野の研究者が集う歴史地震研究会は、他分野間の議論が可能な大変貴重な会であると今回強く感じた。また、専門家だけでなく一般の参加者も無理なく参加でき、互いに語り合うことができる貴重な場であるとも感じられた。

§4. おわりに

最後になりますが、今回歴史地震研究会での発表・議論をさせていただく機会を与えて頂いたこと、また参加報告を書く機会を与えて頂いたこと、御礼申し上げます。大変勉強になりました。そして、会場の準備、運営に携われた皆様に、ここに記して、感謝申し上げます。